

今月の推薦句

山田真砂年選

みやこぐさ咲きかたまりて日が炎ゆる	北原昭子
誰彼の声は黄泉路に桜散る	今村博子
いくたびも逸れるけん玉蝶の昼	岩本尚子
遠足の子の一人泣きみんな泣き	中村かりん
そよぐたび羽になりゆく白木蓮	飛田小馬々
新聞に入試問題文字細か	滝代文平
バス停が尾瀬の入り口花辛夷	中村晃也
足の爪切れる幸せ弥生尽	細井恵子
水温む令和天皇誕生日	関口敦子
春雷を鏡の奥に聞きにけり	大坪正美
夕桜みんなどこかへ行く途中	今井 基
寄す波の白く平らや春の浜	小見戸 実
啓蟄や古墳は月に晒されて	沼田布美
国護る民棄つる民春おぼろ	高田 峰
休日の顔して石鹼玉の中	池田角之助
稽古笛ただよふ闇の沈丁花	矢島千勢子
飛花落花風に色あり形あり	戸上晶子
父が漕ぐ子が漕ぐボート花の下	岡本秀子
陽炎や途切れぬものに鳥の声	久保千恵子
盛り塩へ飛花一片の氏神祭	林 恵美子
動かざる蛙人工芝の上	東 晶